

## 学 Y のインドスタディキャンプとは？（趣旨）

1991年に2名のキャンパーから始まったこのインドスタディキャンプは、日本YMCA同盟の主催の下、今回で23回目を迎えます。これまでに延べ156名の学生たちを派遣してきました。このキャンプでは、南インドの都市部であるバンガロールとチェンナイ、そして村部であるカニヤクマリに滞在し、人々との出会い、異なる文化での体験、差別や貧困といった社会的課題についての学びを通して、自らの生き方を考えます。



チェンナイやカニヤクマリにあるセントボニファスでは、貧困のゆえに家族と共に暮らせない子どもたちと共に過ごし、本当の「貧しさ」「豊かさ」とは何か、この世界の現実を目の当たりにします。また、山積する社会的課題やより弱い立場の人たちのために、草の根で働く人たちや団体（YMCAやマザーテレサプランチなど）への訪問では、「誰かのために生きる」「人に仕える」働きに触れ、私たちに何ができるのかを問われるでしょう。多くの出会いと学びの積み重ねから、キャンパーたち一人ひとりにこの社会や価値観への問題意識が芽生えます。またキャンプ中は、聖書を共に読みながら、一日の振り返りと自らの体験や思いを分かち合います。一人ひとりの問題意識や考えを深く思いめぐらし、互いの違いをも受け入れ合う対話の時間により、このキャンプをより深く味わうことができます。

さあ、インド／アジアに出会い、新しい自分や生き方に出会う旅に出かけましょう。

### 【滞在先の南インド都市】

- ①バンガロール⇒②カニヤクマリ  
⇒③チェンナイ



## キャンプの目的とは？

- ①アンブマナイボーイズホームやセントボニファス※での出会いと体験を通して、アジアへの視点を育てる。  
(※現地受入れ責任者スレッシュ氏が発起する、貧困家庭の子どものための施設。4歳～16歳までの子どもが共同生活している)
- ②インドの学生キリスト教運動(インド SCM)や現地の学生との交流から、インドの社会的状況・課題の学びを深める。
- ③YMCA やマザーテレサの家など草の根で活動する団体を訪ね、インド社会の現実とNGOの働きの大切さを学ぶ。
- ④帰国後、報告書や報告会を通して、自らの体験を日本の学生YMCAや都市YMCAの学生・青年と分かち合い、各地のYMCA活動に活かす。

## 実施期間は？

- 2018年2月20日(火)～3月9日(金)  
※1/20(土)～21(日) (候補日) の事前オリエンテーションへの参加は必須となります(1泊2日・東京)  
※2月20日(火)昼集合、3月9日(金)昼解散  
※なお、都合により日程が変更となる場合はご了承ください。

## インドでの滞在先は？

- インド SCM ハウス：カルナタカ州バンガロールにある、学生キリスト教運動(SCM)の研修施設
- セントボニファス：タミルナドゥ州カニヤクマリ、チェンナイとトリッチーにある、家族と暮らせない子どもたちが共同生活する施設  
※宿泊は2～3名で1部屋、ベットや床に直接マットを敷く。食事は施設で用意されたカレー中心となる。原則、現地の文化風習に従う。

## 参加費用について

- 220,000円 (航空券、現地宿泊・食費・事前事後研修宿泊費・資料費等含む) ※燃料費高騰のため22万円を超える場合有り  
※その他、ビザ取得申請・海外旅行傷害保険・予防接種代、国内移動費等、準備にかかる個人費用は含まれません。  
※ワイズメンズクラブ国際協会東西日本区の支援金を受け実施。

## 募集条件について

- 募集人数：6名前後 (グループの構成上、書類選考有り)
- 学生 YMCA および YMCA の活動に関わり、所属YMCA 責任者の推薦を受けられる方 (推薦文必須)
- 趣旨・目的を理解し、キャンプ前後の準備や報告書作成などの責任を果たせる方。
- グループ行動ができる協調性があり、異文化社会での生活(食べ物・気候・移動)に順応性がある方。
- 英語のコミュニケーション(日常会話)が可能な方。
- 未成年者は保護者の同意が必要です。
- 予防接種(破傷風、A型肝炎他)を推奨します。

## 申込方法・締め切りについて

- 提出書類：
  - ①参加申込書 (所定用紙)
  - ②パスポートのコピー (顔写真ページと最後のページ)  
※パスポートを未取得/取得中の方はご連絡ください。
  - ③ビザ取得申請書 (所定用紙)
- 申込〆切：**2017年12月25日(月) 必着**  
※なお、最少実施人数(5名)を満たさない場合や、国際情勢等の影響で中止となる可能性もありますので、ご了承ください。

## 【お申し込み・お問い合わせ】

公益財団法人日本YMCA同盟  
ブランディング推進協力部学生YMCA  
横山由利亜・伊藤剛士

〒160-0003 東京都新宿区本塩町7  
TEL：03-5367-6645 FAX：03-5367-6641  
E-mail：info@ymcajapan.org  
日本YMCA同盟HP：www.ymcajapan.org/

## ～過去参加者の声（抜粋）～

■ インドに行く前からマザーテレサの NGO に興味を持っていましたが、実際行ってみるとブラザーは人生をその施設での生活に捧げておられて、非常に衝撃を受けました。そして、キラキラした子どもたちとの出会いから、児童労働の現実についても関心を持ち始めました。インドに行く私の目標であった「学びたいことを見つける」ことができたのではないかと感じています。

（大澤和澄・関西学院大学 YMCA 三田キャンパス）

■ 子どもたちと一緒に過ごす時間はとても楽しかったです。私の名前（アヤカ）と似た発音の、「カヤ」という言葉で私を呼ぶので、何？と答えると爆笑の嵐。



「おばあちゃんって意味なんだよ」と子どもが教えてくれて、驚く私を見てさらに爆笑。そこから子どもたちがタミル語を教えてくださいました。お父さん、お母さん、おはよう……など、私に教えてくれたことが本当に嬉しかったです。

（越智文香・清泉女子大学 YMCA）

■ 今まで私は思ったことを伝えずにいたことがありました。でも今回インドで出会った人々やキャンパーには、思ったことを言ってもらえたりして、伝える勇気の大切さに気付かされました。そのことばや思いの重さに感謝しています。

（初村有稀子・清泉女子大学 YMCA）

■ インドでは女性の権利の低さや地域間の格差や貧困など様々な問題を見たが、日本でも同様の問題が存在することに気づいた。虐げられる人々とそうでない人々という構図はあらゆる所に存在しているのだ。このことをありありと思い知らされた。（青山夏樹・京都大学 YMCA）

## インドでのある日のスケジュール

7:00	起床、朝の礼拝、子どもと遊ぶ&学校見送り
10:00	マザーテレサの家(ランチ)へ訪問
13:00	近隣の食堂でランチ、休憩
16:00	学校から帰ってきた子どもたちと遊ぶ
18:00	夜の礼拝、夕食
20:00	一日の振り返り&聖書研究、就寝

## 酸いも甘いも・・・人生いろいろ in インド

日本と文化も風習も大きく違うインド。近年では IT 産業を中心に経済が大きく発展する一方で、貧富の差はますます広がり、また宗教や社会制度（カースト制など）に起因する身分や性別等による差別や抑圧も根強く残っています。学生 YMCA の伝統あるインドスタディキャンプは、そんなインドに約 3 週間滞在し、インドの抱える社会問題やそこで懸命に働く人々との出会いを通して、「私/人は何のために生きるのだろう」と、仲間（キャンパー）と共に考えることのできるプログラムです。インドでの生活は何もかもが新鮮であり、多くの場合は「不便」でしょう。慣れないインド式のトイレ、手で食べるカレー、丸一日乗る寝台列車、携帯電話の繋がらない約 3 週間……。そんな一見すると「不便」な生活の中に、私たちが日本で見失ってしまった「何か」がきっとあります。昨年、小さな農村にある貧困の子どもたちの養護施設に滞在していた私たちキャンパーは、どうしても金属臭のある水を受け付けられませんでした（煮沸水なので殺菌済ではある）。人生で初めて経験する水を飲みたいくないストレスは予想以上の辛さ。ミネラルウォーターを買えば楽だし正直そうしたい。でも施設の子どもたちはみんなこの水を飲んで生きているのに、“先進国”から来た私たちはお金で水を買おうとする。何かモヤモヤする。そんなキャンパー同士が「じゃあ今回私たちはどうしようか」と話し合う。時には涙しながら……。日本にいれば当たり前の「水」一つとっても予想外のことに直面します。でも、どんなときでも私たちの傍には、長年このキャンプを見守ってくださっているインドの暖かい人々がいます。酸いも甘いも盛りだくさんのインド。さあ、思い切って飛び込んでみませんか。

伊藤剛士(第 22 回引率スタッフ)



## 2017年度 第23回 学生 YMCA インドスタディキャンプ 〈募集要項〉

日程：2018年2月20日～3月9日  
場所：インド（カルナタカ州・タミルナドゥ州）



主催：日本 YMCA 同盟  
ブランディング推進協力部 学生 YMCA  
協力：学校法人アジア学院  
ワイズメンズクラブ国際協会東西日本区